活動紹介

NPO法人Little Bees International

数字でみるケニア

・面積 日本の1．5倍
・人口 約4000万人（首都ナイロビ市400万人）
・3大疾病（マラリア・エイズ・結核） 65%
・貧困率 44%
・平均寿命 56．6歳
・HIV 感染率 世界11位
・識字率 61．5%
・大学進学率 4.0%
・失業率61%
・女性の就業率 8．6%
・中等教育の女性の割合（都市部32% 地方部16%）
・自宅での出産率 63．3%
・安全な水と衛星施設へのアクセス状況は公表されていない。
・携帯電話普及率 75%
・シングルマザーの家庭 20．5%
・電気の普及率 22%

コロゴッチョ・スラム

・コロゴッチョとはスワヒリ語でUseless

・1980年代までは、首都ナイロビのゴミ捨て場

・世界的なスラム大国ケニア（ナイロビ人口400万人のうち100万人がスラム在住）のなかでも人口20万人を擁するコロゴッチョは、第三の規模のスラム

・そこに暮す人々は、極度の貧困状況にあり無法地域として、他の地域の人々との交流も途絶え、長らく差別の対象地域

・2006年、ケニア初のコミュニティラジオ局KochFMが、コロゴッチョに設立される。メディアによって、イメージづけられた暴力や薬物、レイプといった社会的病巣の発祥地としてイメージの改善を目指しています。

コロゴッチョ・スラムの現状

- 現在でも、そこで暮らす女性の4割はHIVに感染しているといわれている。
- 仕事がないことから、セックスワーカーで生計を立てる女性が非常に多い。
- 子供たちの3割が学校に通えず、初等教育を修了したとしても高等教育（中学・高校）にまで進学する子供たちは、4割にもみたないといわれている。

Little Bees International

- NPO法人Little Bees Internationalは、ケニアの首都ナイロビに位置するコロゴッチョスラムの若者と女性を支援するためにケニア人の仲間たちとともに2013年7月に設立
- 2013年7月　設立
- 2013年11月　NPO法人
- 2014年6月　ケニアNGO法人

LBIケニア・リーダー

フローレンス：
コロゴッチョの女性チームのリーダー・シングルマザー

キプロノ：
日本の大学でPhD取得。大統領府職員

マイケル校長先生：
アマニ教育センターで150人の子どもたちをケア

キャサリン：スラムで20年以上にわたりボランティア活動に従事。アマニ教育センター創設者。

エズラ：
ケニア初のコミュニティラジオ局KochFMのDJ。ユースリーダー。

エバリン：
コロゴッチョ女性チームのサブリーダー・フローレンスの良き相談相手

LBI: ２つの大きな目的

1.職のない女性や貧困家庭の子どもたちの生活自立に向けた支援をすること

(ケニアの首都ナイロビのコロゴッチョスラムを中心にしたアフリカの貧困地域に暮す人々の生活自立に向けたコミュニティ開発支援を行う。特に職のない女性や貧困家庭の子ども達の就業支援、HIV等の疾病抑制のための啓発活動等公衆衛生環境の向上も含め、女性と子どものエンパワーメントを目的とする。)

2.アフリカと日本をつなぐ橋となること

(スラムに暮す人々と東日本震災地域に暮す人々の交流を中心に、日本の市民社会に広くアフリカのスラムの実態を知ってもらい草の根での市民交流を促進させ、幅広いセクターからの支援を募るとともに、アフリカと日本をつなぐ橋となることを目指す。)

活動紹介（全エリア）

1. 女性の就業支援事業
2. HIV予防啓発とケア活動事業
3. スラムの子どもたちの教育支援
4. スラムの環境向上事業
5. 東北被災地でのアフリカ・スラムの人々との交流事業
6. スラム支援のための募金活動及びイベントの開催事業

活動ピックアップ

- スラムの環境向上事業
- スラムの子どもたちの教育支援
- 女性の就業支援事業

スラムの環境向上事業

コロゴッチョの環境①

コロゴッチョの環境②

なぜスラムで環境か

- 廃棄物の放置による環境の悪化と空気汚染による呼吸器系の疾患率の高さ（1位・2位消化器系の疾病）
- 窓ガラス理論　⇒　環境の質が高まれば地域の犯罪率の低下や子供たちの学習効率の向上がみられる。

軸となるアクション

1．環境教育（ユースと地域住民を対象）
2．国際的な議論への参加
3．CEW(Community Environment Workers)の育成
4．環境美化活動
5．緑地化運動

2015年度の活動目標

- 環境教育を通じて子供たちが、環境問題の大切さを理解し、自発的に課題に取り組む姿勢を身につける
- 国際社会におけるSDGを中心とする国際フレームワークとリンクし、地域の課題の掘り起こしと共有化につなげる
- 地域の生物多様性を保全・促進させるための適切な植生分析に基づく植林計画を立てる
- 環境セミナーへの延べ参加者1500人超

“Mottainai”環境セミナー

- LBIは、ノーベル平和賞を受賞した、故ワンガリ・マータイ博士の意思をつぎ、彼女がケニアに広めた“Mottainai”の哲学をコミュニティで共有しながら、循環型コミュニティ形成のための3(reuse, reduce, recycle)とそれに、Respect（尊敬）を加えた4Rとして環境セミナーを10回以上開催しています。毎回100名以上のコミュニティの人たちが参加。

- 教育が中学校さえ修了していない人たちが多い中で、スラムコミュニティでなにが大切でどう生活していけば、貧困からの脱却のための持続可能な生活を築いていけるのか、わかりやすい題材を使用しながら行っています。（これまで、オーガニックポータブルガーデンの作り方、生ごみを利用した堆肥の生成、日本の環境団体から寄贈されたソーラーシステムを使用した、再生可能エネルギーの効用について等学んでいます。）

“もったいない（Mottainai）”

2005年2月14日から10日間、京都議定書関連行事出席のため来日した際、日本語の「もったいない（モッタイナイ[11]）」という言葉を知って感銘を受ける。同年3月の国連女性地位委員会では出席者全員と「もったいない」と唱和した。同年より「MOTTAINAI」キャンペーンを展開する。

「もったいない」に感銘を受けた後、この意思と概念を世界中に広めるため他の言語で該当するような言葉を探したが、「もったいない」のように、自然や物に対する敬意、愛などの意思（リスペクト）が込められているような言葉が他に見つからなかった。
消費削減（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）、尊敬（リスペクト）の概念を一語で表せる言葉も見つからなかった。
グリーンベルト運動で3000万本以上の植樹を実施。

Mottainaiセミナー

CEWワークショップ
“もし世界が100人の村だったら”

KGBM
（Korogocho Green Belt Movement）

- 、コロゴッチョ・グリーンベルト運動を子供たちを中心にしながら実施（ワンガリ・マータイ博士によって生前行われた植林活動（グリーンベルト・ムーブメント）に習った）
- 昨年夏には、広島市様より、被爆2世のアオギリの苗と種子を100個いただき、日本とケニアの平和のシンボルとして、無事ケニアに植樹も行った。おかげさまで、すでに1000本以上の木を植樹。

アオギリの植樹
ー広島市からのプレゼント

環境教育クラス（毎週水曜日に実施）

スラムの子どもたちの教育支援

アマニ教育センター

- 貧しい子供たちや孤児を受け入れるためのコミュニティスクール
- “アマニ”とは、スワヒリ語で “平和”
- マイケル校長先生と奥様のローズ先生が、スラムにも貧しい子供たちをうけいれるための場所をと、2000年ころにご自宅の居間ではじめたのがきっかけ
- 子供たちの数→250名を超える勢い
- 2013年には、正規の教育機関として、ケニア政府からも認証を受けています。
- 先生の数も6名に増え（うち、正規の教員免許を持っているのは、マイケル校長先生だけです。ローズ先生は、5歳以下の幼児教育を行うための免許を持っています。）

アマニ教育センター

- LBIが支援に入る2014年までは、、、
  - 鉄板のシートで囲っただけの倉庫のスペース
  - 机も椅子もなく、子供たちは、むき出しの地面の上で勉強
  - 教科書も当然なく、古いぼろぼろのテキストをテープでつぎはぎして、使っていた。
- 代表の高橋がはじめて学校を訪れたのは、2012年の12月でしたが、子供たちもピリピリした雰囲気で、笑顔もあまり見られなかったようです。
- そこから、どういった支援をしていけばいいのか、マイケル校長先生夫妻と話し合いを続け、同時に、日本でも寄付基金、支援金を募る活動をNPO法人としてスタートさせました。

【現状】アマニ教育センター

- 100人分の机や椅子を設置
- 8学年分の黒板やチョークも購入
- 教科書も、2015年1月（ケニアは、新学期は、1月からはじまります）、2016年の1月に、それぞれ10万円相当分購入
- 一人1冊にはまだまだほど遠いですが、学年は、1年生から8年生までありますが（ケニアの学制は、８・４・４です。）各教科（英語・スワヒリ語・算数・理科・社会・道徳、副教材も合わせると150冊以上そろえている

勉強以外でのセンターの役割

①子どもたちの健康をまもること、促進すること

⇒コロゴッチョでは、廃棄物、ゴミの堆積による空気汚染も著しく、子どもたちの疾患率は、呼吸器系が第一位、続いて、消化器系の病気が第二位と続いています。

- 子どもたちの栄養改善のために、給食プログラムを2015年度からはじめています。毎月お米５０ｋｇと、それから、青年海外協力隊の方がはじめた、大豆農家組合事業から、1年に2回、８０Kgづつ、黄な粉を購入。栄養価の高い食品として、毎日お昼に子供たちに提供

勉強以外でのセンターの役割

②安全の確保

1. 若年層のギャング化

⇒教育の機会もない、雇用の機会もなく、生き抜いていくために手段を択ばず、ということから、ギャングとなって、ひったくりや、強盗と化し、近年大きな社会課題。

【対策】

- これ以上、若者たちがギャングにならずにすむように、なるたけ多くの子供たちに質の高い教育を与え、独り立ちできるように導いていけたらと願って活動しております。

勉強以外でのセンターの役割

2. 児童レイプの問題

⇒アル中や薬物中毒の大人たちによる、児童レイプが日常茶飯事に起きています。 残念ながら、警察も犯人がわかっていても物的証拠がないと主張し、逮捕を渋ってしまっている、日本では考えられない状況にあります。

【対策】

- マイケル校長先生ご夫妻によるカウンセリングで、被害後の心のケアを行っています。
- また、集団での登下校や先生たちによる地域の見守りもおこなっています（が、それで先生たちが強盗におそわれたりということもあります。）
- 環境に良くないところに住んでいる児童は、学校に直接寝泊りできるよう、今年教室兼寄宿舎の建設を目指しています。

女性の就業支援事業

女性のための就業支援

・プロジェクト名：「ジーンズの加工生地を再利用したスラムにおけるスクールバック製作プロジェクト」

・期間：平成26年7月1日～平成27年3月31日

・女性のためのスキルアップセミナー（各参加者10名）

---平成27年2月9日～2月22日　キテンゲラのNGOサイディアフラハとの協働で開催

---平成27年8月11日～8月16日　エンブのNGOアフリカ児童教育基金の会（ACEF)と協働で開催

女性の就業支援

女性の就業支援

- 現在は、2台盗まれて7台のミシンで作業を行っています。
- コロゴッチョに隣接するケニア第二のジーパン工場から排出される余ったデニムの生地を割安で譲っていただいた、それをもとに、リサイクル事業として作成。
- ナイロビではスクールバックは1000～1500円。貧困層の家庭の子供たちのために作成。

ありがとうございました